
オーズ最終回記念・特別記者会見

月見ココア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オーズ最終回記念・特別記者会見

【Nコード】

N2404W

【作者名】

月見ココア

【あらすじ】

最終回を見て興奮した頭で思わず書いた。後悔は、たぶんしてない。

ただ、言いたいことは俺はお前の味方だということだ。たぶんね。

pixivでも公開中

(前書き)

ちよつとだけ修正。名前「台詞」形式が初めてだったのでいろいろと。(8月31日)

* 注意

オーズ最終回及び夏の映画のネタバレが入っております。
まだ見ていない人はブラウザの戻るをクリック！

また話の都合上、ほぼ台詞のみとなっております。

レポーター「はい、現場です。いまこちらでは仮面ライダーオーズ
最終回放送記念の

特別記者会見が始まるうとしております。

あ、どうやらオーズさんが出てきたようです」

オーズ「……………」

記者1「オーズさん、今回で無事最終回を迎えることができました。一言、ご感想を！」

オーズ「……………なんで……………」

記者1「は？」

オーズ?「なんで俺は活躍できなかったんだあ?!?!?」

記者2「い、いや、オーズさんは約一年間主役ライダーとして世界の平和を無事に……………」

オーズ????「守ったの結局タジャドルじゃん！」

レポーター「は、タジャドル？」

ええ、はい……はい……失礼しました。
いま追加情報があがってきました。

今回、会見の場に登場したのはタトバ、
タトバフォームのオーズさんで……………」

タトバ「コンボッ！　コンボだから！　亜種っぽいけど立派なコンボ！

主役の通常フォームなんだからそれぐらいちゃんと覚えろよ！」

レポーター「（どっちにしろフォームなんじゃ？）……またまた失礼しました。

会見していただくのはオーズ・タトバコンボさん。

先ほど仰っていたタジャドルというのは赤いメダルのコンボだそうです」

記者1「確かに、最後のおいしい所を持っていかれましたが、

それはやはり一年間通じてのオーズの相棒が鳥系怪人のアंकさんだったからでは？」

タトバ「いや、俺もね。タカ入ってるからアंकの兄さんには頭あがらないけどさ。

普通、普通さ、最後は通常フォームが最強フォームで終わるでしょ？」

記者3「確かに、最終決戦のときクウガはアルティメット、アギトはシャイニング。

……龍騎は最終回前に死んでたな。くっ、真司いつ……！！」

記者4「……コホン、ファイズはブラスター、ブレイドもキング、

響鬼は……最終回は通常じゃなかった？」

記者2「（俺に聞くなよ……）」

記者1「カブトはハイパー、電王は最強フォームかで賛否が出ますがライナー、

キバもエンペラーでディケイド、ダブル、共に最終回は基本フォームのままでした」

タトバ「でしょ？

その法則に当てはめるならタジャドル最強ってことになるじゃん。

おかしいでしょ、そこは普通プティラでしょ！？」

記者1「ですがタジャスピナーという固有武器。ギガスキャン、飛翔能力。

スキャニングチャージ技の破壊力、

そして最強とされるプティラの凍結能力と相反する炎の力。

それらを考えると充分に最強コンボだといえなくもないのでは？」

タトバ「……よく調べてるじゃないか……まあそこは百歩譲ってそれでもいい」

記者2「（百歩も譲らないといけないことか？）」

タトバ「終盤、タカをアंक兄さんが回収しちまったからなれなくなっ

て、やっとなれたかと思ったら紫目バージョン。でも結局すぐ姿変わっちゃって

何のためだったのか全然わかんねえし、そのうえやっと最終回にさ、

800年前の王が使った最初のメダル使って
会長さんから『本当のオーズ』とかいわれて、
予告でもめっちゃすごそうな存在みたいになされてたのに、
ふたを開けてみたら何だよ、プトティラやタジャドルの前
座じゃねえか！」

記者1「けど完全体となったウヴァさんを圧倒していたじゃないで
すか。

バースの援護やメダガブリュー、紫メダルの力なしに追い
詰めたのは初では？」

タトバ「うつつ、あんただけだよ。俺のこと評価してくれてんの。
知ってるかピクシブ百科事典だと、俺の項目
『やくたたず』って書いてあんだぜ……」

*注意：本当でしたが現在は「おうのこんぼ」とされている。

タトバ「俺、主役なのに……基本フォームなのに必殺技全然使われ
なかったんだよ。

っていうか前代未聞だろ！？ 必殺キック初使用が不発つ
て！？

二回目はバースと同時使用でどっちが倒したかよくわかん
なかったし！

最終回では決まったと思ったら相手無傷って！」

記者3「いや、あれはドクターの介入があったからで……」

タトバ「それにしだって無傷はないでしょ！？」

同じ不遇といわれるメダジャリバーはちゃんと敵撃破して

るし活躍してやがった。

ゲームでは俺の必殺技の定番になったばかりか。

ガブリューとの二刀流なんてかっこいいことしやがって…

…裏切り者め！」

記者1「い、いや、それはすべてタトバさんという基本のコンボだからこそ映える光景では？」

それに映画ではタトバキックで何体も敵倒してたじゃないですか？」

タトバ「ああつ、最初に雑魚どもを一掃した時と最後のオールコンボで他の連中と一緒にな！」

記者1「そ、それだけじゃありません。

天下の將軍さまとも共闘したライダーなんてタトバさんだけですよ！」

タトバ「あれ思いつき引き立て役だったじゃないか！

あの時代の武器で打倒できる雑魚敵に負けかけるとか…

ホント、俺なさない」

記者2「（相手は吉宗、つかマツケンだからなあ……仕方ないよ）

」

タトバ「俺は、俺は……単独で、主役ライダーの基本コンボとして、恥ずかしくない活躍をしたかったんだあつ！！」

記者1「タトバさん……」

記者2「（うわあ、めんどくさあこのフォーム……）」

記者3「基本ゆえの苦悩か……わかる、わかるぞお……」

記者4「……………では、タトバさんはそうなったのは何が原因だと思いますか？」

タトバ「映司だ……映司が俺をうまく使えないのが悪い！」

記者2「（中の人批判しちゃった！？）」

記者1「確かに、彼はすぐに他のメダルの能力に頼る所がありましたね」

記者2「（おいおい、同調すんのかよ！？）」

タトバ「俺もね、そうやってメダルチェンジしてくのがオースの醍醐味だと思う。

けどさ、第一話ぐらい活躍したっていいじゃない。

なのに敵撃破したのタカキribaじゃん。

トラなんてカマキリより使いづらいなんていわれて、せつかくのバッテリーもあいつ滅多に使わねえし。

……800年前の王様はもっとうまかったのになあ……」

記者4「っ、800年前！？ 当時の話を詳しくお聞かせくださいませんか！？」

司会「まことに申し訳ありませんが会見はここまでとさせていただきます。

タトバコンボさんはこれにて退席となります。盛大な拍手を！」

サゴーズ「タトバ、帰る、すぐ帰る」

シャウタ「行くわよ、ほら立って」

タジャドル「基本コンボがかっこ悪い姿を見せてんじえねっ!」

タトバ「え、うわっ、ちょっと離せ! サゴーズやめろ、本気で掴むな潰れる!

シャウタもムチ使うな、ビリビリする!!

タジャドルっ、てめえだけの手は借りな、熱っ!？」

記者4「ちょっと、これからいいところじゃない!」

記者3「まだ……最終回の感想もらってないんだけどなあ」

記者1「タトバさん、頑張ってください!! おれ、ずっと応援してますから!!」

記者2「……………（これ、どうまとめたらデスクに怒られずにすむかな?）」

フォーゼ「……………え、このあと俺が出て番組紹介? マジ?」

タトバ「あつ、お前は!!」

シャウタ「きゃっ」

サゴーズ「あつっ」

タジャドル「うわっ」

タトバ「フォーゼ!

ここで会ったが百年目! はやぶさ扱いされた仕返しをいまここで!!」

ガタキリバ「TV終盤の出番がなかったうえに、

オールコンボのための踏み台にされるよりはマシな扱いだろうが!!」

タトバ「わっ、反則! 分身して押さえ込むなんて反則だ! 離せえっ!

今こそ俺はタトバキックで勝負を決めるんだあつっ!!」

フォーゼ「ああ、えっと……………」

司会「それではフォーゼさんの登場です」

フォーゼ「……来週から始まる仮面ライダーフォーゼ、よろしくな
！（キラリ！）」

ラトラータ「僕の………出番は？」

月見ココア「ありません」

プトティラ「ガ……」

月見ココア「ありません」

ブラカw

月見ココア「あんたは映画だけ！」

ちゃんちゃん

「終」

（後書き）

俺にはコメディは無理だと思う。それを再認識したよ。
でも後悔はしない！！

ちなみに非常にどうでもいいが記者たちの裏設定も公開しておく。

記者1：平成ライダーのファン。現在タトバの大ファン。ただしフォーゼが始まればフォーゼに移る。

記者2：ライダーに興味がない。上司命令で仕方なく来ている。

記者3：中途半端なライダーファン。知ったかぶり。好きなのは龍騎。大久保 大介に憧れている。

記者4：ライダーには特に思い入れはないが真面目。記者として真面目。

レポーター：一応この様子はTV中継されていた、というてい、のためだけの登場。ライダーに詳しくない。

司会：話を終わらすために突然出てきた人。常に笑顔。何しても笑顔。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2404w/>

オース最終回記念・特別記者会見

2011年11月10日20時11分発行